

令和3年度「論文準修士コース」受講生 募集案内

令和3年1月
富山県立大学

富山県立大学では、令和3年度の大学院研究生『論文準修士コース』受講生の募集を行います。

論文準修士コースは、研究と科目履修を組み合わせた1年間の教育研究コースです。若手技術者が働きながら大学で研究と専門的知識を修得できます。

1. 論文準修士コースの特徴

①企業が抱える研究課題の解決

県立大学教員の指導のもと、若手技術者の業務に関連した実践的な研究を行うことにより、短期間に企業ニーズに沿った実務成果を挙げることが可能です。

②若手技術者の人材育成を支援

若手技術者が1年間、企業で働きながら県立大学で高度な研究開発能力と企業経営に必要なMOT（技術経営）等の専門的知識を修得することにより、「経営の分かる若手技術者」の育成を支援します。

③技術者自身のスキルアップ

県立大学教員の指導による高度な研究開発の実施や専門的知識の修得により、スキルアップが図れます。また、修了者には「富山県立大学 論文準修士」の称号を授与します（さらに学修研究を希望する場合、「修士」や「博士」の学位取得も可能です）。

2. 論文準修士コースの概要

コース内容	研究	1テーマについて、指導教員のもと学内外において研究に従事し、修了時までには研究の成果を記した論文（準修士論文）を作成します。		
	科目履修	MOT科目（4科目）を含めた5科目について、学内で正規の大学院生とともに受講し、レポート等で成績を評価します。		
		部門	授業科目	履修要件
		MOT科目	技術経営論Ⅰ	必修科目
			地域産業論	必修科目
			技術経営論Ⅱ	この中から2科目選択
			創造性開発研究	
		教養科目	高度実践英語	この中から2科目選択
			科学技術論	
		専門科目	各専攻が開設する授業科目	1科目選択
募集人数	各専攻（機械システム工学専攻、知能ロボット工学専攻、電子・情報工学専攻、環境・社会基盤工学専攻、生物・医薬品工学専攻）若干名			
入学資格	大学を卒業した方、または、同等の学力があると認められた方で、入学時現在で1年以上の専門的な実務経験を有する方（ただし、留学目的で来日の外国籍の方を除きます。）			
修学期間	毎年4月から1年間（特別な理由により、4月入学が困難である場合は、10月入学を認める場合があります。）			
修了	準修士論文の審査に合格し、履修科目を修得された場合には、修了証とともに「富山県立大学論文準修士」の称号を授与します。 ※一定の履修科目（技術経営論Ⅰ、地域産業論を含む3科目）についてのみ修得された場合には、「富山県立大学テクノマスター」の称号を授与します。			

受講料	「論文準修士コース」へ入学される場合、次の費用が必要です。 入学考査料：9,800円 入 学 料：富山県の住民の方は56,400円、その他の方は84,600円 授 業 料：月額29,700円（年額356,400円）
志願 手続	教員とのマッチングを経た後、入学願書及び研究計画書等を提出していただきます。
出願 期間	令和3年2月1日（月）～令和3年2月26日（金）まで

3. 各専攻の教育研究概要

幅広い工学分野から、研究テーマをお選びいただけます（詳細についてはお問い合わせください）。

機械システム工学専攻

熱流体工学部門、固体力学・設計生産工学部門、材料設計加工学部門

環境に配慮した安全で安心な社会の構築を目指した高度な機械工学の専門教育と研究を行います。

知能ロボット工学専攻

機能ロボティクス部門、知的インタフェース工学部門、知的センシング工学部門、知能情報システム工学部門

賢いシステムを設計できる幅広い視野を持つ人材を育むことを目標に、機械・電子・情報工学の3領域にまたがる専門教育と研究を行います。

電子・情報工学専攻

情報メディア工学部門、集積デバイス工学部門、電磁波応用工学部門、ソフトウェア工学部門、量子マテリアル部門

技術革新と情報化社会を支える「情報・通信システム」を対象に教育と研究を行います。

環境・社会基盤工学専攻

環境工学部門、社会基盤工学部門

さまざまな環境問題を解決できる幅広い視野を持つ人材を育むことを目標に、環境保全のための高度な専門技術やマネジメントに関する教育と研究を行います。

生物・医薬品工学専攻

酵素化学工学部門、応用生物プロセス学部門、微生物工学部門、生物有機化学部門、植物機能工学部門、機能性食品工学部門、応用生物情報学部門、製薬化学工学部門、バイオ医薬品工学部門

生命科学に関する新知識（バイオサイエンス）と新技術（バイオテクノロジー）の教育と研究を工学的見地に重点において行います。

OMOT 科目概要（毎週金曜日午後が開講）

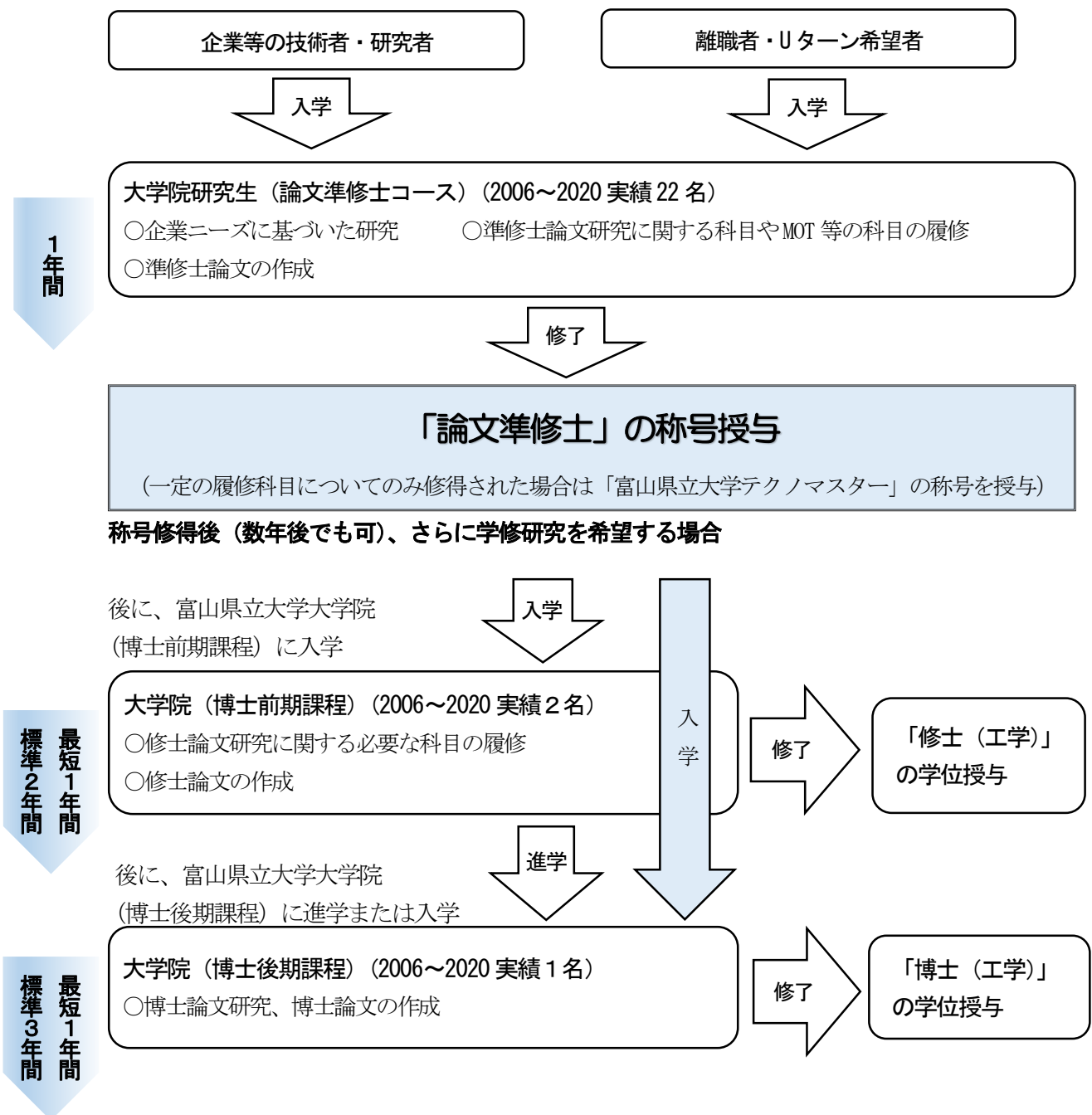
企業で求められる MOT（技術経営）に関する基礎的な知識、本県における産業の特色・事例、地域企業等の経営者や技術者による講義やケーススタディを学ぶことができるとともに、技術経営を学ぼううえで必要な創造的思考能力の向上を図ることができます。

	7・8限（14：50～16：20）	9・10限（16：30～18：00）
前期開講（四～八月）	<p>○技術経営論Ⅰ（Management of TechnologyⅠ）</p> <p><講義概要> 技術経営に関する基礎的な事項（財務、特許、市場調査、資金調達等）について、演習も交えた体系的な講義により理解・修得する。</p> <p><講義項目> 技術経営とは何か、経済、会社経営、財務会計、特許制度、技術開発、ベンチャー・ビジネス論、マーケティング入門、資金調達、その他</p>	<p>○技術経営論Ⅱ（Management of TechnologyⅡ）</p> <p><講義概要> 創造的事業に取り組む地域企業の経営者・技術者を講師に招き、機械、情報、ロボット、バイオ、環境等、様々な技術分野における技術経営の実際を学ぶ。</p> <p><講義項目> 機械、情報、ロボット、バイオ、環境等、各分野を代表する地域企業の創造的事業にかかる取り組み事例</p>

	7・8限 (14:50~16:20)	7・8限 (14:50~16:20)
後期開講 (十一月)	<p>○地域産業論 Promotion and Creation of Regional Industries</p> <p><講義概要> 地域産業の創造的事業展開を目的に、技術の事業化や企業経営に不可欠の知識であるマーケティング、地域経営戦略、知的財産、ファイナンスの理論や事例を学ぶ。</p> <p><講義項目> 経営戦略と地域、マーケティング、本県産業の特性、知的財産の想像と保護・活用、ファイナンスの理論と実際、その他</p>	<p>○創造性開発研究 Creativity and Serendipity</p> <p><講義概要> 技術者としての研究・開発を進めていく上で必要となる、論理的思考や技術への理解力を学ぶ。</p> <p><講義項目> グループ討論や発表を通して創造性開発のための実践演習を中心に進める。</p>

※科目履修のみご希望の方は、「大学院科目等履修生」として受講することができます。

4. 「修士」・「博士」の学位取得への道筋



「論文準修士コース」から大学院（博士前期課程・博士後期課程）へ入学する場合のメリット

A. 大学院入学後、標準修業年限を短縮して学位取得することが可能です。

大学院入学後は、民間企業や論文準修士コースでの研究実績を基礎に、当該課程（博士前期は2年、博士後期は3年）を短縮して修了（博士前期、博士後期とも最短1年）、学位（修士または博士）を取得することが可能です。（※）

※「論文準修士コース+大学院在学期間短縮措置」の利用で、大学院の標準修業年限在学より経費面で有利になります。

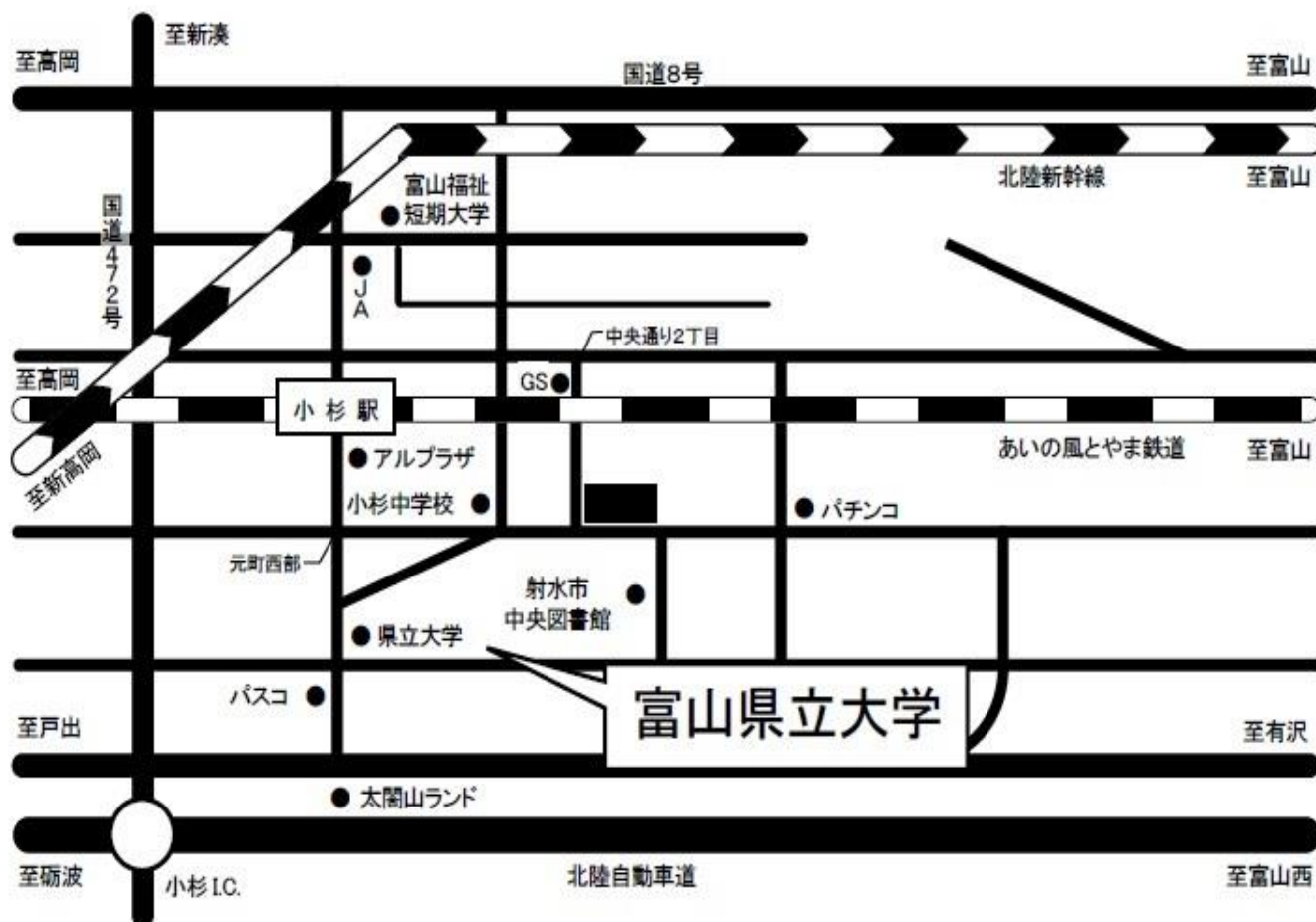
B. 高校・高専・短大卒業の方も、大学院に入学することができます。

入学資格審査に際し、入学希望者のキャリア（学歴・企業在籍年数・研究実績等）や論文準修士コースでの研究実績を十分に勘案します。また、大学院博士前期課程に入学した場合は、受講済の5科目に係る単位(10単位)を大学院の修了要件単位数（32単位）に算入することができます。

C. 博士前期課程を経ずに、博士後期課程に入学できる場合があります。

民間企業等での研究実績も加味し、修士と同等の学力があるかを判断します。

5. アクセスマップ・お問い合わせ先



【お申込み・お問い合わせ先】

富山県立大学事務局 射水キャンパス 教務課教務係
〒939-0398 富山県射水市黒河 5180
TEL : 0766-56-7500 (内線 1231) FAX : 0766-56-6182
E-mail : kyoumu@pu-toyama.ac.jp